［社会福祉の立場から］　ソーシャルワーク教育における実践力の養成の現状と課題

日本女子大学　渡 部 律 子

＜本シンポジウムでの発表内容まとめ＞

本シンポジウムでは、⑴ソーシャルワークの特性、⑵学部教育・卒後教育に関して、シンポジストの経験と聞き取り調査から見えたこと、⑶現在の課題、将来への展望、の３点に関してお話しをしたい。

１点目のソーシャルワークの特性であるが、医学・看護学と比較したときに、大きな違いとして見えてくることは、資格の名称独占はしているが、職業独占ではないということであろう。この特性も理由となり、学部・学科で社会福祉を学んだものの進路は少なくとも３つに分かれていく。このようなキャリアパスをまず考慮していく必要がある。

２点目の学部・卒後教育の現状と課題を理解するために実習担当教員、現在中堅と言われる立場にある社会福祉士（約12人）、経験の豊かな社会福祉士、などからの聞き取りを行った。その結果、学部教育及び卒後教育の持つメリットと課題につながるような現状が見えてきた。学部時代の実習などを含む実践関連の教育は、後の実践の基本となるような部分に深い影響を及ぼしていることが明らかになったが、具体的な基本知識・技術の応用となると、学部時代にそれらをマスターすることが困難だということが分かった。

３点目の現在の課題・将来への展望であるが、学部教育では、特にこの時期に強調・強化するべき内容を抽出し重点的に教育することの必要性を感じる。また、卒業後の教育に関しては、スーパービジョンがしっかりと職場で体制化できていない現状で、いかにそれを補足していくのかを考え出していくかが課題である。その補足方法として、地域や全国組織の職能団体が勉強会の機会を提供していくことや大学院での教育が考えられるだろう。

以下は、本シンポジウムでの発表予定内容を一覧表にしたものである。

＜発表予定内容リスト＞

（１）ソーシャルワークの特性：職業倫理・職務内容、資格と職業との関連性、学生の進路

①ソーシャルワークの特性（職業倫理と職務内容）

自己決定原則、課題の広範さ、直接観察不可能な仕事内容、因果関係理解の困難さ、限定的な知識基盤とテクノロジーの基盤、感情エネルギーの要求

②資格と職業との関連性：「社会福祉士」＝名称独占、職業独占ではない

③学生の進路：異なるキャリアパス

＊卒業後すぐに社会福祉関連の仕事につくもの（その後の社会福祉職の継続に関しては問わない）＊卒業後はいったん一般就職をし、その後、社会福祉の仕事に転職するもの＊卒業後まったく福祉の仕事とは関係ない生活に入るもの（地域活動などを通じて福祉的な役割を「職業」としてではなく実践していくものも含まれる）

（２）学部教育・卒後教育に関して―シンポジストの経験と聞き取り調査から見えたこと

①学部養成過程における実習や演習教育の取り組みと課題

＊限られた実習時間内でのスキル獲得の限界→期待の明確化＊座学と実学との結び付け→異なる領域での方法論の比較検討、「基礎知識」が統一され積み上げ式になっているか？（各科目担当者間での共通認識の有無）＊実習先のバラエティー・個別性への対応→教育法・アウトカム研究の必要性

（Ａ）大学における教育（実習担当者からの聞き取り）

＊実習期間制限内でのスキル獲得限界＊座学で学習した内容がどのように実践で生かされるかに関する課題（実習先のバラエティー）

（Ｂ）学部での実習教育（学部での実習経験－実践家からの聞き取り）

＊実践現場で働く人々が振り返りをした際に特に学部での実習から学び、かつ現在まで有用だと考えられること―①社会福祉の基本理念・姿勢の習得、②対象者の理解、③社会福祉実践・実践家のモデル獲得、④臨床現場での悩み・迷いに関するフィードバックの重要性への気づき、⑤実践に関して常に思考する習慣の大切さの理解

②卒業後の教育や研修についての現状と課題

（実践家からの聞き取り）

役だった方法－①大学時代の教員によるグループスーパービジョン、②同僚間、先輩と問題の話し合い、③職能団体、④大学の授業、⑤仲間間ピアースーパービジョン

（シンポジストの経験）

＊兵庫県の介護支援専門員協会での試み事例紹介＊

教材開発、講師育成、地域ごとの研修体系づくり

（３）現在の課題、将来への展望

①学部教育に関して―学部で特に強調・強化するべき内容（基本的な思考力の形成、福祉職の持つべき理念・職業倫理、後に応用可能な基礎知識を実践に結びつけて提供、「知性」と「感性」両側面の教育バランス、実習での経験を振り返る機会とフィードバックの提供

②卒業後教育に関して―職場内スーパービジョンの時間確保、（しかし、経験者が少ないことを考慮して）、地域、全国の職能団体が勉強会の機会提供、スーパーバイズできる人材育成（専門職大学院教育などのあり方の検討）

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

Alfred Kadushin and Daniel Harkness (2002)“ Supervision in Social Work”. New York: Columbia University Press. ｐ３２－４３.